国際看護研究会 NEWSLETTER No. 44

Japanese Society for International Nursing

2007. 1. 30 発行

本号の内容は以下のとおりです。

I. 運営委員会報告	p. 1
II. 国際看護研究会第10回学術集会準備委員会報告	p. 1
III. 第43回国際看護研究会報告	p. 2
IV. 国際看護研究会第4回スタディツアー参加者募集	p. 4
V. 第44回国際看護研究会のお知らせ	p. 4
VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）	p. 4

I. 運営委員会報告

第48回運営委員会は2006年12月21日（土）にJICA地球ひろばで開催された。第9回学術集会についての報告が行なわれた。収支報告が行われ、110,257円の赤字（準備開始時点で研究会から学術集会準備委員会に貸与された7万円を含む）補填の申請があった。無駄な経費が認められず、会費が低額であり参加者数が少なかったことが大きな理由と考えられ、協議の結果予備費から支出することが認められた。参加費の変更を含め、収支について次回以降の学術集会準備委員会で検討して貰うことにした。なお、第9回学術集会芝山会長からは5万円の寄付、記念誌100冊の購入の申し出があった。3月下旬に予定されているスタディツアーの申込みが1名しかなく、広報活動を強化し、ちらしを作成することにした。引率者への予算は確保されているため、1名でも実施することにした。また、2007年度運営委員を選出する選挙についても協議された。久保恭子氏および鶴岡章子氏が選挙管理委員となり、2月はじめに投票予定で準備を進めることになった。なお運営委員の各係のうち1名（計4名）は残留し、残りの6名を選出する予定である。

II. 国際看護研究会第10回学術集会準備委員会報告

第10回学術集会は2007年9月15日（土）に千葉大学看護学部岩崎弥生教授の会長の下に開催予定である。第1回準備委員会が1月13日（土）にJICA地球ひろばで開催された。今後開催に向けて企画、広報活動、募集等準備を行なう。

会員の皆様のご経験、ご研究成果の発表をお待ちしています。

Ⅲ. 第 43 回国際看護研究会報告

第 43 回国際看護研究会は、「大学院で国際看護学を学ぶ」をテーマに関 育子 氏（日本赤十字看護大学国際看護学：助教授）にご講演いただきました。

大学院で国際看護学を学ぶ —私が教員になった理由—

関 育子

日本赤十字看護大学 国際看護学

1 はじめに

私がいただいたテーマの「国際看護学を学ぶ」という表現を逆にすれば、「国際看護学」を教えるということになります。私が大学の教員を引き受けた理由は、看護のグローバル化を迎えた現在、「発展途上で看護の仕事をする」とのカタチを次の世代に伝えることによって、21 世紀のナースが新たなパラダイムを展開できると考えたからです。そこで、1981 年から今日までの断続的な仕事を通して考えてきたことを、諸姉に紹介したいと思います。すなわちそれが、私が大学院の授業で取り上げている「国際看護学」の内容の骨格になっています。

2 経験に学ぶ

私は経験論者ではないのですが、実際に生活しその物事に密着していた経験を基に、実感した点について述べたいと思います。

- 1) 「ナースの概念」の大いなる差異について；マラウイ共和国では看護師と助産師は同義で、正常分娩を扱うのは准看護師ですが、異常分娩の介助は看護師の業務に規定されています。もちろん医師が分娩に立ち会うなどあり得ず、私も骨盤位分娩、吸引分娩、頸管裂傷縫合、胎盤用手剥離、新生児仮死蘇生挿管などを常時行っていました。その上、帝王切開の適用を一般医に指示しなければなりません。ケニア共和国では Kenya Community Health Nurse という、いわば地域保健看護師という名称が看護師を指しており、地域のヘルスプロモーションやプライマリ・ヘルスケアが職務とされています。たとえ手術室勤務であろうとナースである以上は、分娩介助経験が必須です。3.5 年の教育年限のうちに臨地実習は 120 週ですが、そのうち分娩介助 28 例以上、健康教育・学校保健、村落の診療所での地域保健看護実習が 60 週間あり、これは私が受けた 1960 年代の日本の臨床志向看護教育に類似していました。
- 2) 自然分娩の偉大な力について；時計や暦のない生活をしている妊婦は、妊娠週数や陣痛発来時間を、月の満ち欠けや太陽の高さで容易に判断していました。レントゲン・超音波診断装置、ドプラなど一切ないところでは助産師は触診に頼るしかありませんから、この行為を通して妊婦とコミュニケーションを重ねていきます。「全く介入しないという分娩介助」はガーゼ 5 枚、コップ 2、剪刀があれば可能で、これが分娩介助のあるべき姿といえます。
- 3) 健康の不平等の存在について；たとえばマラウイの平均余命は 39.3 歳、乳児死亡率は 135、5 歳未満死亡率は 215、妊産婦死亡率は 560 です。日本との比較では、乳児死亡率は 40 倍、5 歳未満死亡率と妊産婦死亡率は 30 倍の高さです。また、ケニアの主要死因は、1 位マラリア、2 位呼

吸器感染症、3位皮膚感染症、4位下痢症、5位消化器寄生虫です。いずれも、予防と治療法が確立され早期発見治療によって確実に治癒する疾患です。しかし、ケニアではそれが子どもの死亡原因の上位を占めていました。日本に出生した私は生きていますが、たまたまケニアに生まれた人は、治療可能な疾患でありながら死んでいくという人生を歩まねばなりません。しかも、人口10万人に対する看護師の数はマラウイでは6人、ケニアでは23に過ぎず、健康の不平等が大きな存在となって立ちまわっています。環境の整った近代的病院の中には見えないことが、至る所にあることを教えてもらいました。

4) スマトラの津波災害緊急救援の仕事を通して；「緊急救援・国際救援」と「国際開発協力」の明確化です。すなわち、国際救援は病院型医療・看護モデルの応用であり、災害サイクルに応じた急性期、慢性期、回復期の各々の看護の専門性を発揮することでした。一方、国際開発協力は開発理論とプロジェクトマネジメント理論を必要としており、看護モデルではなく、社会開発モデルの適用であることを認識しました。

3 大学院における「国際看護学」の現状

1) 日本の現状

日本の看護系大学数は2006年に144になりましたが、2003年に私が大学に就職当時は110で、そのうち学部教育では「国際」を冠した「看護」「保健」という科目を設定していたのは48校でした。一方、大学院の修士課程は64校で入学定員は1119名、博士19課程、入学定員191名でしたが、国際看護学を開講している看護系の大学数は把握できませんでした。また、最大の問題は国際看護学の定義が多様なことにあり、たとえば「国際保健看護学」「国際看護活動論」「看護国際協力論」「異文化看護論」「国際比較看護論」などの科目名から、看護分野の国際開発協力のあり方を扱うものが多く見られます。

2) 日本赤十字看護大学の現状

私の勤務する日本赤十字看護大学では、「国際看護学」を含む10領域を修士課程で開講していますが、他の領域と異なり、博士課程には「国際看護学」を開設する気配はありません。これには学生の確保が困難で、かつ、専攻し研究する人が少なく、学問としてまだ確立していないという背景があるようです。また、赤十字の特徴である「国際的な災害看護活動」と「国際看護学」とは、ほぼ同一のように扱われることも往々にしてあります。

私は国際看護学を次のように定義しています。『国際看護学とは国際的な看護活動を行うための理論体系である。すなわち国際看護活動は自国あるいは第二国の団体・組織から目的を持って発展途上国に派遣されたナースの行動を指す。その行動は当該国フィールドにおいて人間の健康状態を向上させることを目的として、社会・自然環境の中で健康問題と影響要因の明確化を図り、問題解決と健康レベル向上の方策の計画・実施・評価という各ステップを包含する一連の活動であり、その領域は看護実践、管理、教育、研究である。』

私のゼミには赤十字や青年海外協力隊・JICAの活動経験のある方たちが出席しており、この方たちには実際の活動を通して抱いた疑問や課題を、さらに探求したいという共通点があり、非常に刺激的なディスカッションを展開しています。私のゼミの概要を下記に示します。

科目名	ね ら い
特講	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際保健学の基礎理論を学び、看護学の視点で理論枠組みを考える。 ・ 学生は自らの国際活動の体験を振り返り、体験と理論とを統合して、「国際看護学」の概念構築を行う。 ・ 国際協力機関の機能、国際開発協力理論を学び、プロジェクト立案、実施、評価のプロセスを理解する。
演習Ⅰ，Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある国を取り上げて任国研究を行う。 ・ 任国研究の中で関心のあるテーマを研究課題として取り上げ、文献検討、研究計画書の作成を行う。
実習Ⅰ，Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあるテーマを探求し、フィールドワークを行う。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画書に基づきデータ収集を行い、論文を作成する。

4 「国際看護学」の展望

青年海外協力隊のデータによると、1960年から2004年までの44年間に発展途上国で活動をしたナースは1554人に過ぎません。グローバル化の中で、健康の安全保障の見地から、社会や健康の不平等・格差の是正のために、ナースの役割が期待されています。21世紀を担うナースには、大学院で国際看護学を研究しその確立に寄与する意義が一層大きくなると思われま

IV. 国際看護研究会第4回スタディツアー参加者募集

国際看護研究会第4回スタディツアーを開催することになりました。将来開発途上国で活動してみたいけれど、まず途上国の現状を知りたいという会員の皆様、ぜひ奮ってご参加ください。詳細は同封のチラシをご覧ください。

V. 第44回国際看護研究会のお知らせ

第44回国際看護研究会は、下記の通り開催いたします。皆様奮ってご参加ください。

日 時：2007年3月17日（土） 13：00～15：00

会 場：JICA 地球ひろば（JICA 広尾センター） 住所：東京都渋谷区広尾 4-2-24

テ ー マ：開発途上国派遣者の健康管理の実際

講 師：井上 康子 氏（国際協力機構健康管理センター、主任看護師）

VI. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

1. 本研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費（2千円）により運営されています。2006年度会費をまだ納めていない方は至急お振込をお願い致します。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。また、事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。

郵便振込先：00150-6-121478 国際看護研究会

2. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。転居された方は研究会事務局に新住所をご連絡下さい。海外にも NEWSLETTER をお送りしています。
 3. NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。事務局までお送り下さい。
 4. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。
 5. 第 9 回学術集会抄録の残部があります。ご希望の方はその旨明記の上、抄録代として 500 円分の切手 (80 円までの小額でお願いします) と返送先を書いて 210 円分の切手を貼った A4 サイズ用の返信用封筒を事務局までお送り下さい。
-

国際看護研究会連絡先 (事務局) /NEWSLETTER 発行元

E-mail : kokusaikango@iris.ocn.ne.jp

URL : <http://www15.ocn.ne.jp/~jsin/>

年会費振込先 : 国際看護研究会

口座番号 00150-6-121478

※ニュースレターの記事に関して無断転載を禁じます。

皆様のご理解をお願いいたします。